

気候情報

2012年7月の日本の天候

- 「平成24年7月九州北部豪雨」が発生
- 月の中頃と下旬は東・西日本を中心に猛暑日となった所があった
- オホーツク海高気圧の影響により一時的な低温になった

7月の天気概況

期間の前半は梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、太平洋高気圧は本州の南海上で西に張り出した。このため、沖縄・奄美では晴れの日が多かったが、北日本から西日本では曇りや雨の日が多かった。特に九州北部地方では11～14日にかけて、非常に湿った空気が流れ込んだため記録的な大雨となり甚大な災害が発生した（「平成24年7月九州北部豪雨」）。

月の中頃には、太平洋高気圧が本州付近で次第に強まり、東・西日本と沖縄・奄美を中心に晴れの日が多くなった。しかし20～22日頃にかけては、北・東日本では太平洋側を中心にオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響により曇りとなり、気温が平年を大幅に下回ったほか、東日本日本海側や西日本でも湿った気流の影響により雲が広がりやすく、一部では大雨となった。

23日頃からは太平洋高気圧が西日本付近で強まったため西日本では晴れた。その後26日からは、北日本から西日本にかけて太平洋高気圧に覆われて晴れて気温が上がり猛暑日となった所もあった一方、沖縄・奄美では湿った気流の影響により雲が広がりやすくなった。

なお、四国、中国、近畿、東海、関東甲信地方では17日ごろ、北陸地方では18日ごろ、九州南部と九州北部地方では23日ごろ、東南北部と東北北部では26日ごろ、梅雨明けした（速報値）。

上旬：期間の終わりは移動性高気圧が本州付近を覆い全国的に晴れたが、そのほかの日は、梅雨前線が西日本から東日本にかけて停滞し、北日本から西日本では曇りや雨の日が多かった。特に期間のはじめは、梅雨前線に向かって非常に湿った気流が流れ込み、九州地方を中心に大雨となった。太平洋高気圧に覆われやすかった沖縄・奄美では晴れの日が続いた。

中旬：前半は北日本から西日本では梅雨前線や気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多く、西日本では大雨となった所もあった。特に九州地方では梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込んだため、所々で記録的な大雨となり、福岡、大分、熊本県では甚大な災害が発生した。16～18日にかけては、太平洋高気圧が本州付近で次第に強まり、九州を除いた西日本と東日本では晴れて気温が上がったが、19～20日にかけては東日本日本海側と西日本では湿った気流の影

響を受けて曇りや雨となったほか、オホーツク海高気圧が張り出した北・東日本太平洋側では雲が広がり気温が平年を大幅に下回った。沖縄・奄美では期間を通じおおむね晴れた。

下旬：期間のはじめはオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で、北・東日本太平洋側を中心に雲が広がりやすく、気温は平年を大幅に下回った。また、湿った気流の影響などにより東日本日本海側や西日本でも雲が広がりやすく一部では大雨となった。23日からは太平洋高気圧が西日本付近で強まり、西日本では晴れて気温が上がったが、北・東日本では気圧の谷の影響で雲が広がりやすかった。26日からは北日本から西日本にかけては、太平洋高気圧に覆われ晴れて気温が上がり猛暑日となった所があった。沖縄・奄美では前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多かった。

7月の気候統計

月平均気温：全国的に高かった。

月降水量：北・東日本太平洋側では少なかった。北・東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美では平年並だった。

月間日照時間：北日本日本海側で多く、北日本太平洋側、東・西日本、沖縄・奄美では平年並だった。

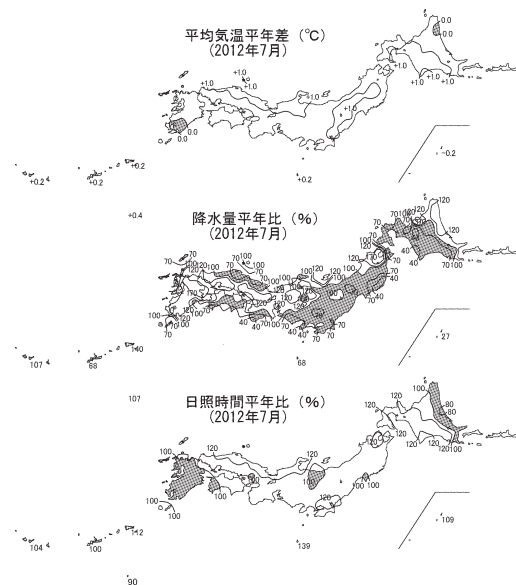
（気象庁観測部情報管理室）

7月の記録（1位更新のみ）

・月降水量多い方から（mm）

日田 1014.5

2012年7月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。